

防災庁設置準備担当大臣

赤澤 亮正 殿

要 望 書

鴻巣市、桶川市、北本市

要望書

埼玉県平野部のほぼ中央に所在する鴻巣市、桶川市、北本市の3市は、首都50km圏内に位置し、3市の面積は、112.61km²、人口約25万7千人（令和7年4月1日現在）の都心への通勤・通学に便利な住宅都市として発展してきました。また、行政運営の効率化を図るため埼玉県央広域事務組合を設立し、消防及び斎場業務を広域的に実施するなど連携・協力し、圏域の発展に努めています。

このたび、下記の理由をもちまして、現在設置を進めている「防災庁」につきまして、3市の圏域への設置を要望いたします。

記

1 強固で安定した地盤

本圏域は強固な地盤の大宮台地に位置し、今後30年以内に高い確率で起こると想定されている東京湾北部地震（首都直下地震）や南海トラフ地震において、都心部と比較して被害は少なく想定されています。また、活火山や雪害、津波等の地理的リスクが比較的低い地域です。

2 地震に強い道路ネットワーク

本圏域には、首都圏中央連絡自動車道が東西に走り、本圏域の中央部を国道17号線が南北に走るなど、第一次特定緊急輸送道路である高速道路と主要国道が縦横に配置されており、優れた交通ネットワークを形成しています。

また、首都圏中央連絡自動車道の、桶川加納IC、桶川北本ICを有しており、東名高速道路・中央自動車道・関越自動車道・東北自動車道・常磐自動車道などの主要な高速道路へのアクセスにも優れています。

さらに、首都高速道路に繋がる埼玉高速道路の整備も計画されており、東京都心へのアクセスも容易になるなど、どこで災害が発生した場合にも陸路によるアクセスに優れています。

3 都心部への良好なアクセス

本圏域にはJR高崎線が南北に縦貫し、5つの駅を有しています。運行本数も多く、他中央省庁の都心部までの鉄道利用は、約1時間以内の所要時間であり、良好なアクセスは平時において有効です。

4 航空輸送力の優越

本圏域には、航空自衛隊熊谷基地や埼玉県防災航空センターなどが使用するホンダエアポートが近接しており、空路による人員・物資輸送の拠点としても期待が持てます。

5 防災力をけん引する防災発信拠点

本圏域の一級河川である荒川及び利根川の存在は、暴れ川の水害対策や治水対策などに関する知の拠点であります。また、広域的な防災拠点に位置付けられている防災道の駅「べに花の郷おけがわ」、体験型防災学習施設の埼玉県防災学習センター「能美防災そな一え」、埼玉県唯一の「埼玉県消防学校」などが所在し、地域防災の情報発信地点になることが期待されます。

令和7年10月3日

防災庁設置準備担当大臣

赤澤 亮正 殿

埼玉県 鴻巣市長

並木正年

桶川市長

小野克典

北本市長

三宮幸雄